

# International Conference on Economic Theory and Policy

(実施報告書)

日時：2023年9月13-15日

場所：明治大学駿河台キャンパス、アカデミーコモン、およびリバティタワー

国際会議「経済理論と経済政策に関する国際会議」を上記の日程で実施した。基調講演 5, 一般報告 37 の国際会議であり、そのプログラムは、以下の URL で公開している。

<https://www.isc.meiji.ac.jp/~confyagi/Program%20&%20papers2023.html>

この国際会議は、2010年よりコロナでの2年の中断をはさんで毎年継続して実施している国際会議であり、海外でも「September Conference」として広く認知されている。特に今年は、2023年はアダム・スミスの生誕300年、デイヴィッド・リカードウの没後200年にあたり、またスミスおよびリカードウ研究で世界的にも知られている L.L.パシネッティ教授が今年1月31日にご逝去された。そこでスミス、リカードウ、L.L.パシネッティ教授に関する一般報告を

**第1日目に、アダム・スミスに関するセッション(6報告)**

**第2日目に、リカードウ研究会のセッション(4報告、本国際会議と経費を別とする)**

**第3日目に、パシネッティ教授の追悼のセッション(4報告)**

として特別のセッションとした。また基調講演についても

**第1日目の最後の基調講演：ハインツ・クルツ教授(グラーツ大学)**

ADAM SMITH (\*1723) and DAVID RICARDO (†1823) Why still care about them in 2023? Heinz D. Kurz (University of Graz, Austria)

**第2日目の最後の基調講演：ベルトラム・シェフォールト教授(ゲーテ大学)**

Recent progress in capital theory, with applications to distribution and monetary policy  
Bertram Schefold (Goethe University in Frankfurt, Germany)

**第3日目の最後の基調講演：塩沢由典教授(大阪公立大学)**

Ricardo, Sraffa, Pasinetti, and Beyond

Yoshinori Shiozawa (Professor Emeritus, Osaka Metropolitan University, Japan)

という重要な講演をプログラムに組み込むことができた。

ハインツ・クルツ教授(77歳)およびベルトラム・シェフォールト教授(79歳)は、ともにヨーロッパ経済学史学会の会長を務めた経験を持ち、古典派経済学の研究では世界でも最高峰の研究者であり、この2人によるスミスやリカードウに関連する基調講演、および塩沢教授による基調講演は、学術的にも高く評価してよい講演であり、討論も

一般報告では、海外からの報告者は16報告で、イタリア1名、イギリス3名、ドイツ1

名、韓国2名、オーストリー2名、アメリカ2名、ブラジル1名、フランス1名、メキシコ1名、ノルウェー1名で、海外からの参加者は、フランス1名、中国1名であった。また、国内からの報告者は10報告は外国籍の留学生による報告であり、国際会議として有意義な会議であった。

この国際会議は、明治大学政治経済学部経済学科の共催として企画・実施した国際会議であり、国際学術雑誌 *Journal of Economic Structures* を学会誌とする環太平洋産業連関分析学会にも Co-organized conference として協力していただいた。政治経済学部の勝悦子教授、武田巧教授、小早川周司教授、長峰章名誉教授、商学部の千田亮吉教授には司会を担当していただいた。

この会議の第1日目のレセプション、第2日目のディナー、第3日目の東京湾クルーズ&ディナーを通じて、深くコミュニケーションをとることができ、明治大学での9月の定例となったイベントとして、この国際会議への求心力をさらに高めることができた。

なお、参加者の合計は、80名を超えた。

(報告者：八木尚志)